

知事との県民対話集会（南牧村）概要

- ・開催日時 令和5年1月18日（水） 午前10時30分から正午まで
- ・会場 南牧村中央公民館 大会議室
- ・参加者 県民160名、大村南牧村長、阿部知事、高橋佐久地域振興局長
- ・テーマ 持続可能な産業構造のために・・・「変わるべきものと保持されるべきもの」

・主な発言（要旨）

【参加者】

・野菜は天候によりよくできるときとできないときがある。よくできたのに畑に捨てなければならないのが一番つらい。

【参加者】

・価格調整のための野菜の廃棄について、自然相手なので多めにつくらなければならないことは分かるが、農協のアドバイスがあるにも関わらず、時期によっては毎日廃棄している。つくりすぎないように工夫しないと環境的にも持続可能ではないと思う。

【知事】

・私も相当違和感がある。これだけ地球環境を守ろうと言っているのに、つくった野菜の廃棄はもちろん日本は食品を残しすぎているのではないかと思う。
・生産されている人にとってはつらい状況。長野県は農業、農村が元気にならないといけなくて、一つでも解決するよう、皆さんとともに考えてやっていきたい。

【参加者】

・未満児の保育料は高く負担になっているため、無償化してほしい。

【知事】

・保育料負担軽減の話は極めて重要であるが、保育園は市町村や民間の運営である。
・県としても考えなければいけないが、保育に関する話は市町村がやっている話で、県が市町村に補助する場合は、すでに軽減している市町村にとっては市町村の負担が軽くなるだけ。
・保育の話は、保育料の話、保育士の給料、保育士の配置基準の充実といろいろな課題があり、全部関連している。どこにお金を入れればいいのか悩むところ。

【参加者】

・村では女性の力が本当に大きい。女性の活躍は大事であり、農作業以外にも子育て、家事、介護とみんな助け合っていかなければ生活できない。

【知事】

・何でもかんでも女性がやるべきだという固定的性別役割分担が子どもの数の減少につながっているのではないとも言われている。
・サラリーマンの社会は男性の育児休業を増やそうとしているが、個々の農家の皆さん、個人事業主では家庭内の役割分担を変えていくという話になるので、現状を教えてください。

【参加者】

・生産コストの上昇とコロナ禍での需要減少で単価が下がって厳しい状況。
・農家の多様性として、品質にこだわった付加価値のある農産物にしていくことが必要。
・肉はオレイン酸等の基準に合えば信州プレミアム牛肉に認定される。野菜もそういう基準を設けて、付加価値を付与できないか。

【知事】

・日本の経済は価格転嫁しづらくなっている。給料も上がる、物の価格も上がるという健全な循環にしないといけない。
・長野県でエシカル消費を進めている。環境にやさしいものや障がい者がつくった製品を買いましょうという一方で、海外で子どもを強制労働させてつくった製品は買わないようにしましょうという、物の値段とは違う評価で選ぶことをやっている。世の中を変えるやり方として、毎日の買い物行動で変える方法もある。県民みんなが取り組んでくれれば多少は変わる。安ければいいということではない、地元の品質のよいものを買おうという取組が広がるように協力してほしい。

【参加者】

- ・ 持続可能な農業を考えるに当たって、一番最初に考えるのは後継者のことである。
- ・ 本気で農業をやりたいと思っている若い世代を外から呼び込んで、地域や県として育てていく取組をしていけば、持続可能な地域づくりにつながっていくのではないか。

【知事】

- ・ 発展する地域は多様性のある開かれた地域であると思う。
- ・ 昨年の長野県の人口は久しぶりに社会増になったが、これは価値観が都会志向だけではなくなりつつあるからというのも要因の一つである。
- ・ その流れを長野県としても活かさないといけないが、来た人を受け入れる土壌がないと困る。地域の人がよそ者を嫌がる地域は発展しない。
- ・ 東京などの大都市で生まれ育った人にとって農業は仕事の選択肢に入っていない。その意味では、ウエルカムだよと地域で受け入れてくれれば呼応する若者は必ずいると思う。

【参加者】

- ・ 自然が豊かな長野県で教育環境がよければ人は集まると思う。
- ・ 教育環境の面で一番の悩みは交通の便。小学生までは村で無償の送迎があるが、高校生になると親が関与しないと成り立たない。
- ・ 親の負担がなくても通学できる交通手段について、電車やバスで採算をとれないところに県が助成してもらえると助かる。

【知事】

- ・ 交通については、来年度から交通政策局をつくって県として力を入れたい。
- ・ ただし、県は仕組みづくりしかできない。この地域の交通をどうするのか、皆さんが考えないと進まない。
- ・ 新しいことをやろうとするときに規制があると思いが止まってしまうが、持続可能性を考えたらこの方がいいという話であれば、その規制を変えるように声を上げてほしい。

【参加者】

- ・ 商工業と観光業について、イベントで情報発信をしようと思っても商工会は人員が少なく、また、仕事がある中で時間がない。県のサポートがあればありがたい。地域で合同のイベントを行うという話もあるが、南佐久は商工会であるが、佐久市は商工会議所であるなど東信で一括りにできないこともネックである。

【知事】

- ・ 南牧村には観光資源がたくさんあるが活かしていないところが課題。
- ・ 県の発信力も高めて行きたいが、村の魅力は村民の皆さんがよく知っている。皆さんが南牧のよさをしっかり考えてくれれば、私もいろいろなところで話をしたい。
- ・ 南牧村は、中部横断自動車道ができれば県内で最も首都圏に近くなる。八ヶ岳の景観に勝るものはない。どう打ち出すかは皆さんに考えてほしい。
- ・ 円安で外資が入ってきて、お金は使われるが外にもっていかれてしまうことは避けなければならない。
- ・ あとは持続可能性。白馬は再生可能エネルギーでリフト運行をしている。人は来てほしいが環境と調和しないといけない。

【参加者】

- ・ 地元産をアピールするためにも地域の食材（肉牛）を使いたいが、地元で肉牛を飼育しているのに調達できない。

【知事】

- ・ と畜場の整備は県としてしっかりやるが、地元の牛肉の調達については流通の方などと話した方がよいと思う。

【参加者】

・農家と商工業と行政と一緒にイベントなどを行うが、縦割りで情報共有が関係者に展開されない。それぞれ連携がとれれば良いと思う。

【知事】

・イベントなどの縦割りを解消するというのはそのとおりである。そのために地域振興局を置いている。
・ポテンヒットにならないように取りに行くことは公務員としてしっかりやらなければならないと思う。
・県では県民参加型予算として、県民の発想で提案してもらい事業を進めようという取組を始めている。

【参加者】

・信州型コミュニティスクールに商工業者が入れるようにしてはどうか。商工業者が入ることで、子どもたちにも多様性が見せられると思う。

【知事】

・私がやれない部分の話。地域の皆さんで話してほしい。

【参加者】

・酪農業について、飼料高騰等により個々の努力だけでは解決できない状況である。この状況が続くと産業も衰退していくのが目に見えている。対策を早急をお願いしたい。
・消費者からは牛乳が高いと言われ、スーパーからは安くしろと言われる。利益がほとんどでない状況である。
・酪農は個人ではできない仕事、農協や獣医師など様々な方が関わる仕事であり、そういう方が安心してできる社会にしていかなければならない。引き続き支援してほしい。

【知事】

・適正な価格がどれくらいなのか相場観を誰も持っていない状況である。
・当面の価格高騰対策は考えないといけないが、ずっと税金で支えるのは無理だと思っている。
・生産者、消費者、流通業者が一堂に会して対話するとどこに課題があるか分かると思う。

【参加者】

・日本の食料自給率は37%。スイス、イギリス、アメリカでは自給率を高めるために50%以上の助成金を出している。日本は27%しか補助していない。そこが農家が苦しい原因だと思う。

【知事】

・日本では、産業分野の中でも農業の補助金は手厚い方。
・交通や基本的な暮らしを支える食料自給率を上げる施策等に税金を投入した方がよいと思っている。
・県で100~200億円単位でものを考えるということになれば、県民の皆さんに負担してもらって考えますかということ真剣に考えなければいけない。私は知事の責任を果たしていきたいと考えているが、皆さんに考えてもらいたいこともたくさんあると思う。今までの仕組みや制度の変えるべきところは変えていかないと激変する世の中を乗り越えていけないと思うので、変えるために声を上げてもらいたい。

【参加者】

・鹿害による農業への影響が大きい。冬になると山梨に疎開し、育って長野へ戻ってくる。

【知事】

・問題意識をもって林務部と話したい。